

## プリムラ類の間欠冷蔵による早期・高品質出荷技術

プリムラ類について育苗期に低温暗黒下と自然条件下（ハウス内）を3日ごとに交互に管理する間欠冷蔵技術を開発した。これにより慣行と同程度の品質で早期出荷が可能となり、早生品種は11月初旬から出荷でき、晩生品種は需要の高い年末期の出荷割合を高くできる。

### 内 容

プリムラ類は冬～春季に利用される鉢花・花壇苗で、早生品種は12月頃、晩生品種は1月頃から出荷されている。一方、市場では秋季から需要があり、晩生の八重咲き品種等は年末期に求められている。これまでに連続した暗黒冷蔵処理により開花促進するものの、花や葉が小さくなり品質低下することが問題であった。そこで、低温暗黒下と自然条件下を交互に管理する間欠冷蔵により、品質を低下させずに早期出荷が可能か検討した。

早生品種「ポニー・イエローシェード」を2017年5月18日に播種し、7月22日から9月5日まで50穴セルトレイ苗で冷蔵温度10℃・「3日冷蔵－3日ハウス」の処理を8サイクル繰り返した。慣行は6月11日に播種し、苗は冷蔵処理せずハウス内で管理した。その結果、間欠冷蔵により、開花始めは慣行より17日早い11月1日となり、出荷期を早くすることが可能になった（図、写真）。出荷期における間欠冷蔵区の草丈、株幅、最大葉長及び花径は慣行と同等だった。晩生品種「セブン

ティー・ブライトローズ」は、5月11日に播種し、7月12日から9月19日まで冷蔵温度5℃・「3日冷蔵－3日ハウス」の処理を12サイクル繰り返した。慣行は6月16日に播種した。その結果、間欠冷蔵により、12月31日における開花株率を慣行の20%から60%に高めることができた（データ略）。

以上の結果から、間欠冷蔵を利用した作型として、5月中旬に播種、6月下旬に50穴セルトレイに仮植し、「ポニー・イエローシェード」は冷蔵温度10℃の間欠冷蔵を8サイクル、「セブンティー・ブライトローズ」は冷蔵温度5℃の間欠冷蔵を12サイクル行うことで、早期に高品質な商品を出荷できる。

### 普及上の注意事項

0.5坪の冷蔵庫でセルトレイ40枚程度が入り、冷蔵とハウスの入れ替えにより2倍の80枚程度の間欠冷蔵処理ができる。

水谷 祐一郎（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

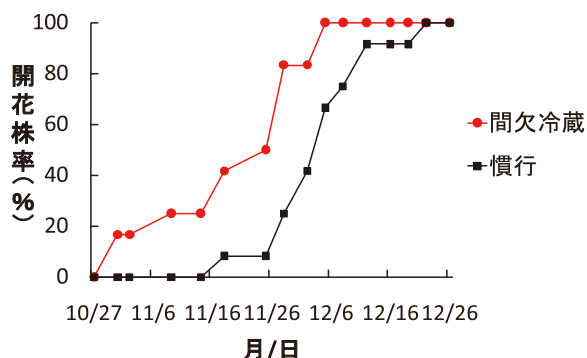


図 プリムラの早生品種「ポニー・イエローシェード」の開花株率の変化（2017年）



間欠冷蔵



慣行

写真 間欠冷蔵のプリムラの早生品種「ポニー・イエローシェード」に対する開花促進の効果（2017年11月28日）